



Roche ロシュグループ

ドイツ証券カンファレンス

中外製薬株式会社
代表取締役社長 兼 CEO
永山 治

2009.9.30

将来見通し

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。

実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

環境変化に対する各社動向と中外

医薬品を取り巻く環境変化

- ◆ 2010年問題：各社の大型製品の特許が相次いで満了し、業績に大きく影響
- ◆ 低いR&D効率：研究開発費の高騰に反して、新薬の創出/成功確率は低下
安全性面での承認審査の厳格化（開発後期中止、遅延）
- ◆ 市場低迷/構造変化：主要市場での医療費抑制志向の強まり、後発品市場の拡大
一方で、新興国における市場の成長
- ◆ ステークホルダーの影響：ニーズの多様化、情報の迅速提供と社会的責任追及

変化への対応策

- ◆ 買収、合併による製品パイプラインの充実。事業多角化。テリトリーの拡大
- ◆ がんなど薬剤貢献度が低い領域への参入、バイオ製品・技術の獲得
- ◆ 根本的問題を解決できる「持続的新薬創出モデル」構築に向けた体制への転換

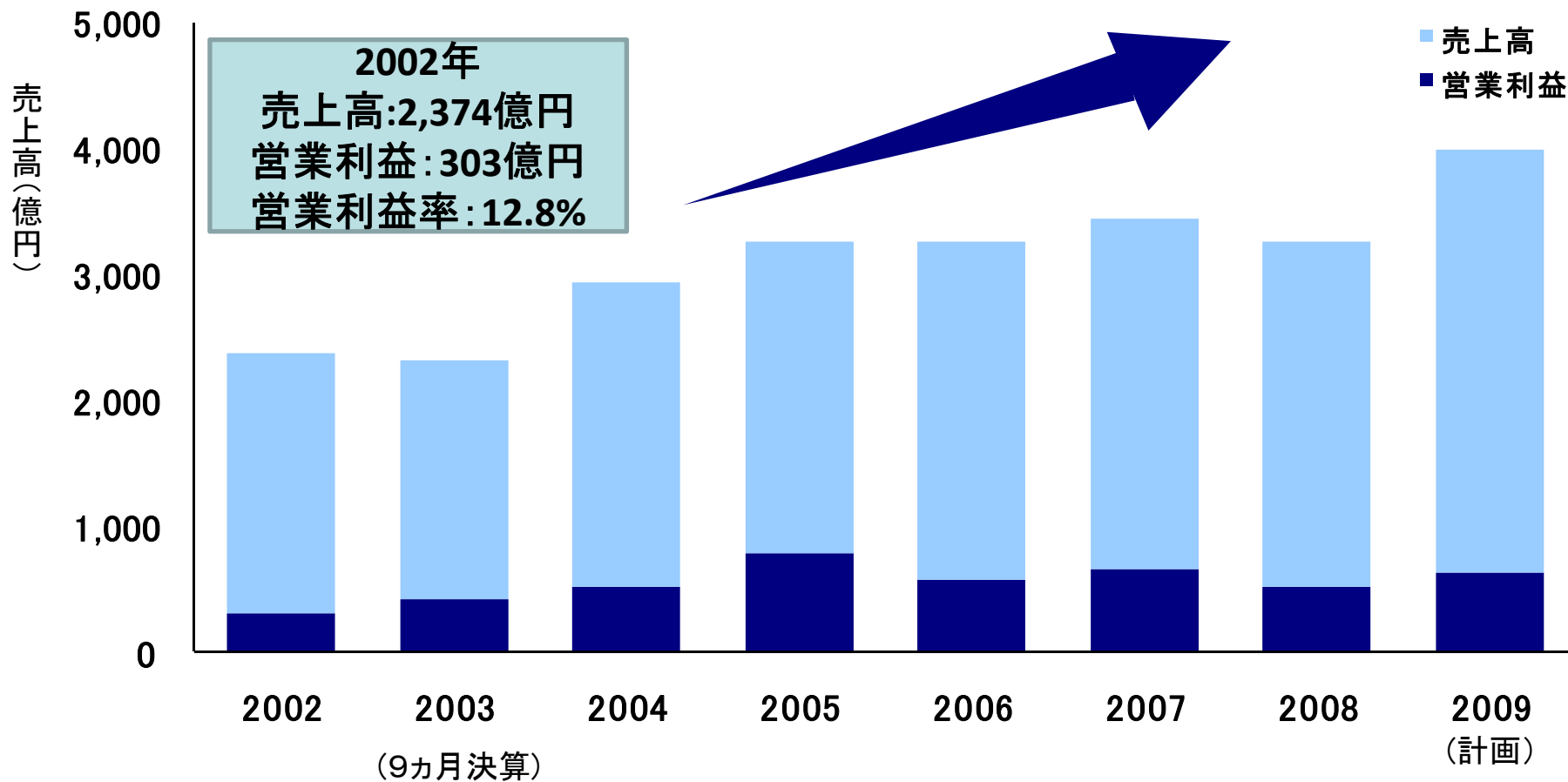
中外の状況

- ◆ 80年代からのバイオ技術蓄積、日本初の抗体医薬品のグローバル上市実現
- ◆ ロシュとのアライアンスによりがん領域を中心に強化、重点化領域をリード
- ◆ ロシュグループとして3地域COEの強みを生かした、継続的創薬・バイオ生産体制を構築

統合後の成果

売上は約1.7倍、営業利益は約2.1倍に

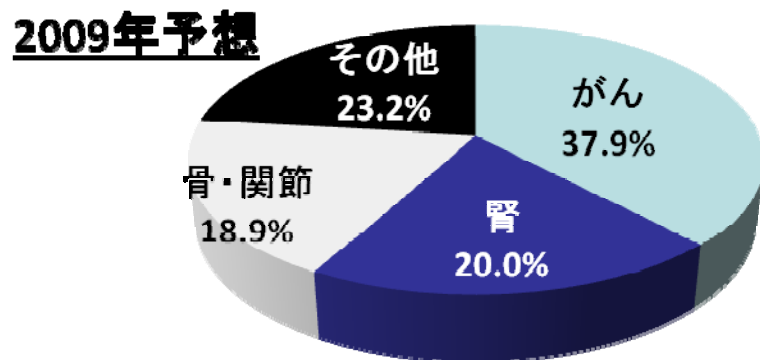
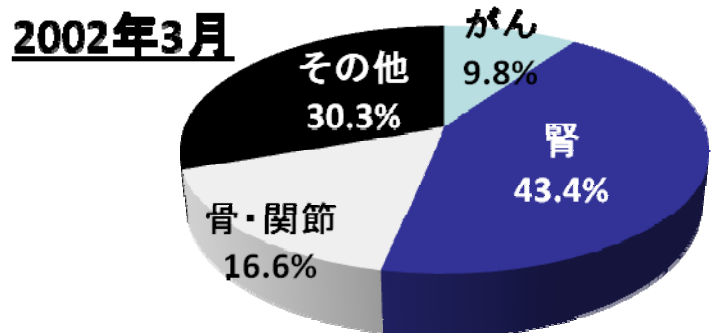
2009年予想
 売上高:4,000億円
 営業利益:630億円
 営業利益率:15.8%



がん領域における躍進

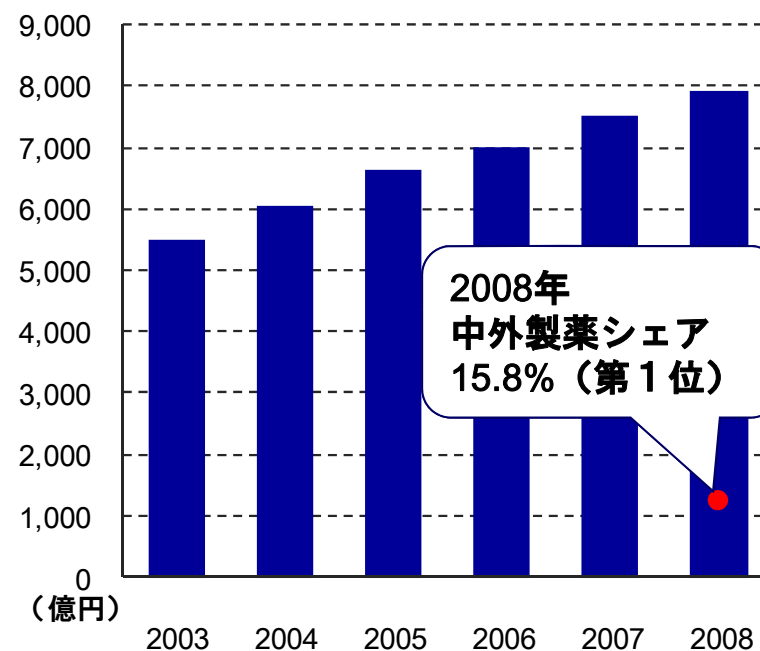
国内売上比率の推移（タミフル除く）

アバスチン・ハーセプチン等の発売により
売上におけるがん領域比率が大幅に増加



国内がん領域市場推移

2008年より売上トップシェアを確保



出典：IMS JPM 2008年12月MAT(薬価ベース)
がん領域は会社定義による

アクテムラの状況

【日本】

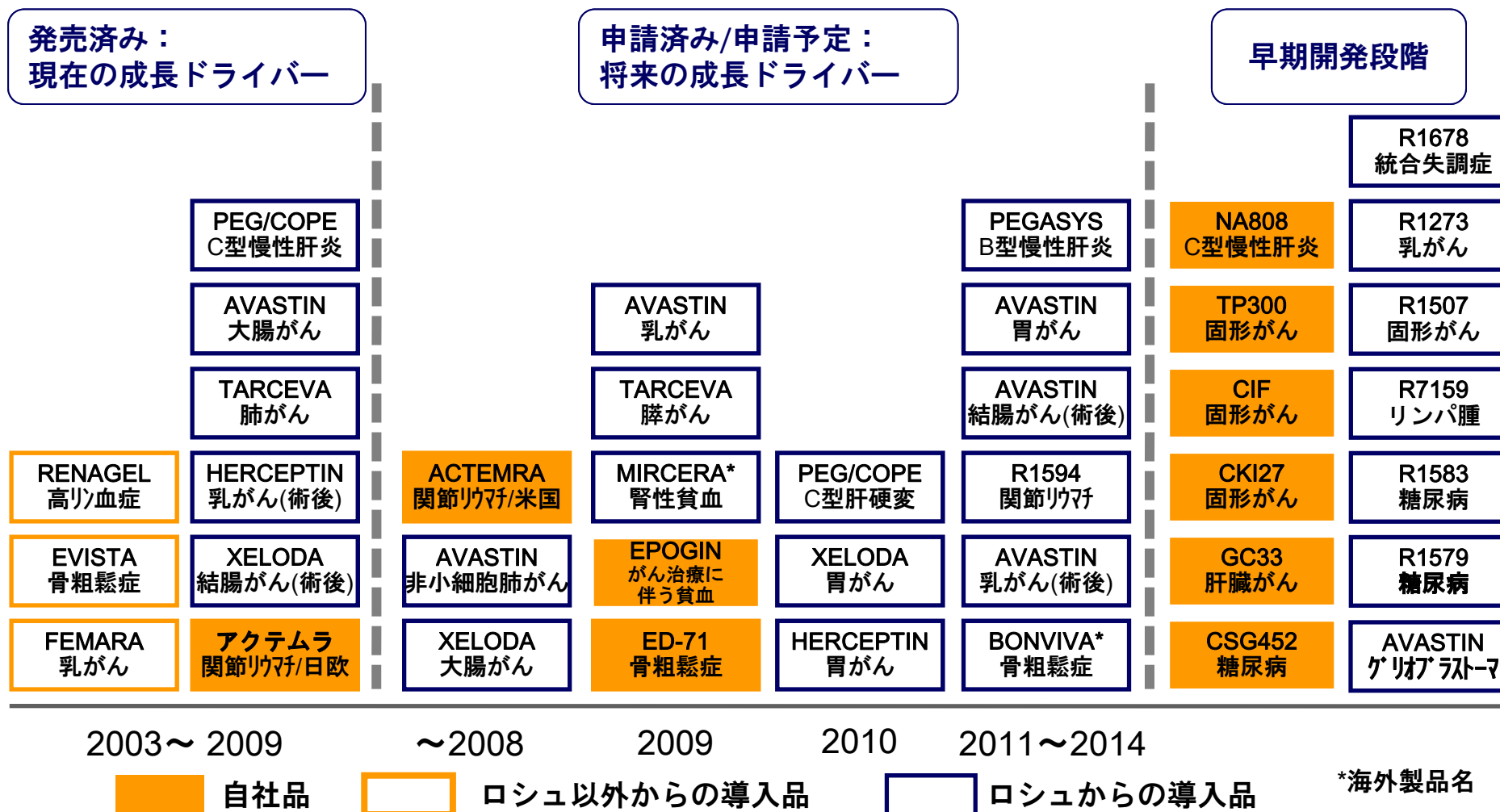
- 2008年4月 関節リウマチ承認
 - 全例調査中（2009年8月現在 7,000例以上が登録）

【海外】

- 2009年9月現在 発売 15カ国、承認 62カ国、申請 40カ国。
 - <欧州>
- 2009年1月 承認
 - ドイツ：発売中、イギリス・フランス：年内発売予定
 - <米国>
- 2009年7月8日
 - REMS(Risk Evaluation and Mitigation Strategy)計画、非臨床試験データをFDAに提出。Class2（審査期間）に指定。PDUFA DATEは2010年1月8日。

パイプラインの充実

開発申請は順調。長期的な収益源となる自社品も早期開発段階に



Sunrise 2012 達成とさらなる成長へのステップ

今期はトップ製薬企業に向けて力強く羽ばたく年



お問い合わせ先

広報IR部 IRグループ

Tel : 03-3273-0554

e-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当：内田、前田、清水、時田